天理大学で「宗教と社会」学会開催

堀内みどり

6月21日22日、天理大学2号棟を会場に、「宗教と社会」学会第22回学術大会（山田政信実行委員会委員長）が、開催され、204名が参加した。天理教に関する2つのパネル発表があり、活発な質疑応答があった。また、おやさと研究所では、両日研究所で編纂した書籍頒布を行い、参加者の好評を得た。

22日午後に、永岡崇氏（南山大学宗教文化研究所）を代表者とした「天理教研究の現在—歴史から問う—」が企画され、これに幡鎌一弘氏（天理大学おやさと研究所）が発表者、島田勝巳氏（天理大学）がコメンテーターとして発題した。本パネルは、戦前から戦後にわたる天理教運動の歴史的検討を通じて、①「天理教」研究の現状と課題の検討、②新宗教研究の方法論的再検討、③教学研究と歴史学・社会学的新宗教研究の関係をめぐる検討を行うことを目指して企画された。発表題目は以下の通りで、これに対して、桂島宣弘氏（立命館大学、当日来学できなかったので、コメントが代読された）と大林浩治氏（金光教教学研究所）、島田勝巳氏がコメントした。

永岡崇：「二重構造」論をこえて

幡鎌一弘：天理教の教祖伝編纂に見る教義・信仰・歴史

金泰勲（立命館大学）：1930年代、『天理時報朝鮮版』を読む

パネル「天理教研究の現在—歴史から問う—」

また、22日午前には堀内を代表者とし「異文化伝道と天理教」をテーマに、中牧弘允氏（吹田市立博物館長）をコメンテーターに迎え、天理大学のメンバーでパネル発表を行った。

海外での布教伝道は、言葉やその土地の有り様を考慮する必要があり、そのための準備や調査も必要となる。海外を異文化と認識するとき、おのずと、そこには「適応」とか「土着化」ということが考えられなければならない。一方で、戦前の中国大陸での伝道は当時の世界情勢の中の日本と深くかかわり、また、南北アメリカ大陸では、日本がこれらの地域へ移民を送り込む歴史と関係が深い。現在、38の国と地域に布教拠点を持つ天理教は、日本人居住者が多い地域だけではなく、世界各地に拠点を置いている。これは中山正善天理教2代真柱の指導に基づいた組織的な取り組みの現れであるともいえる。天理外国語学校の創設は外国語の習得を目指し、天理図書館や天理参考館の開設で、世界の文物を通して世界を知ることができるようになり、海外部や印刷所も設置された。以上のことを踏まえ、本パネルでは、多元化・グローバル化している国際世界の中で、天理教の海外布教は今日、どのような意味を持つのか。海外を異文化と捉えたとき、天理教が成立し布教伝道してきた日本とは異なる文化背景を持つ人々に対して、天理教は何を伝えようとしているのか、またどのような「たすけ」を実践していくのかを改めて考えてみることとし、以下の発表を行った。

金子昭：「台湾の宗教文化における天理教のプレゼンス—その現状と課題—」

井上昭洋：「英語圏における天理教伝道：ハワイ・北米を中心に」

山田政信：「ブラジル伝道と天理移民」

森洋明：「天理教のコンゴ伝道に見る現地化の諸相とその背景」

堀内みどり：「多様な社会での天理教の信仰とその伝達：インド・ネパールを中心に」

また、別会場では、「宗教と社会」学会20周年記念企画として、「『宗教と社会』誌からみた「宗教と社会」学会の20年」というパネル発表が行われた。

パネル「異文化伝道と天理教」

天理台湾学会第24回研究大会で発表

金子　昭

天理台湾学会（佐藤浩司会長）の第24回研究大会が6月28日、本学を会場に開催され、国内及び台湾から60名が参加した。台湾の歴史や文学、宗教などに関わる10本の個人発表のほか、新刊書発表、また記念講演が行われた。記念講演では、檜山幸夫・中京大学社会科学研究所台湾史研究センター長が、「台湾総督府文書と台湾史研究」と題して報告。個人発表の部では、台湾宗教学会の会長を務める黄柏棋・国立政治大学教授が、「論祖先與祖霊」と題して中国語で研究発表を行った。また私も、「台湾の“無縁社会”における宗教者の開拓伝道と支援活動—台北神愛教会/台北市先住民ケアの挑戦—」という題で、研究発表を行った。

(From page 13)

religious volunteers. A doctor served as the room chief, an office was established within the research facilities of a national university, and religious scholars also took part in its management. This activity, which began through the initiative of various religions, developed into something that began to involve medical personnel and scholars, and is currently in search of a mode of religious care, with the goal of “from funeral to care of the distressed, that does not have evangelical purposes.

Saburo Yagi — The Path Towards Normalization (31) Case of Denmark [3]

In Denmark, where I conducted my research this time, the setup for parking spaces in facilities is similar to those in Japan, but the system of management greatly differs. That is, the regulations regarding fines and punishment are codified as law. In our country where such legal enforcement does not exist, the question of how to regulate access is a critical issue. At the current stage, there is a move to act upon people’s morals in efficient ways, including cautionary signs, outreach, and warning letters to prevent inappropriate usage. In addition, can we not codify into law the kinds of regulatory system that exists in Denmark? We need to have an open discussion on instituting a legal system of fines and punishment in order to ensure proper access to disabilities parking space in facilities used by the general public. That is, we need to construct a social system that ensures appropriate use in our country.

訂正

8月号の巻頭言内で、おやさとふしん青年会ひのきしん隊の発足の日を昭和31年4月1日と記しましたが、この日は同隊再発足の日です。昭和29年1月9日が発足の日ですので、お詫びして訂正いたします。